

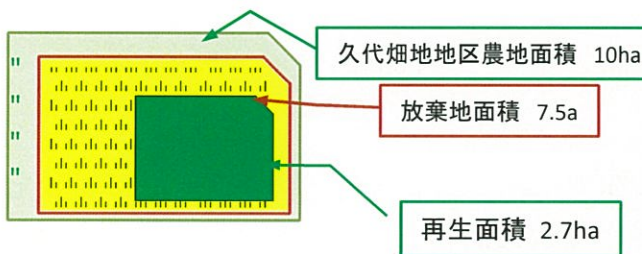


企業参入による大型再生利用 ~ 自社加工用さつまいも栽培



日本海からの堆積砂により形成された標高50m弱の丘陵地。長年にわたり広くぶどう栽培が行われ、一大産地とされていた。元々、優良農地ではあったが担い手不在化もあり、耕作放棄が見られ始めた。地域協議会で再生事業を実施のあと、大分県の農業生産法人を誘致する形でさつまいも栽培が始められた。

【浜田の気候 年平均値】	春/3~5月	夏/6~8月	秋/9~11月	冬/12~2月
気温 (°C)	13.1	24.3	17.6	6.9
降水 (mm/月)	127.9	198.8	193.3	130.9
日照 (時間/日)	5.7	6.0	6.0	4.8



再生前(1)



再生前(2)



きっかけ

参入企業は大分県臼杵市の農業生産法人「みなみん里」。

自然災害に対するリスク分散策として新たな栽培地を探すなか良質な砂地であるにも関わらず後継者不在のために耕作放棄地となっていた久代畑地団地の情報を得、試験栽培の結果も良好であったことから平成24年から自社加工用のさつまいもの栽培が始められた。

自社加工

大分県の農場で収穫されたさつまいも(紅はるか)は自社施設で熟成され、『蜜衛門』の名前で関東方面の百貨店などで販売。久代畑団地で収穫されたものも大分に運ばれ、同様の熟成期間を経て関西地区の百貨店などを中心に『いわみ蜜衛門』ブランドで販売が始まっている。



『いわみ蜜衛門』として加工され京阪神百貨店を中心に販売

再生初年度から二毛作で 平成24年/春 さつまいも 6万本を植え付け

平成24年/秋 たまねぎ10万本を植え付け



再生内容

浜田市耕作放棄地対策協議会が取組主体となり1.5haについて小灌木の除去、雑草除去、天地返し、土壌改良、電気柵設置を行った。併せて用排水管の敷設替え、スプリンクラー184基も設置。優良農地としての質をさらに高めている。協議会では、24年度、25年度にも再生事業を計画。精力的に放棄地解消を進めていくことにしている。



「ふるさと農業研修生」として1ターンの～2年の実習を経て、独立営農。



島根県中西部に位置する広島県境まで約10kmの中山間地域。近隣農地では水稲、ぶどうの栽培等が行われている。再生地は元水田。担い手がなく10年程度耕作がされない状況が続いていた。

(参考気候)降水は波佐、気温・日照は弥栄の観測値

【参考の気候 年平均値】	春/3~5月	夏/6~8月	秋/9~11月	冬/12~2月
気温 (°C)	2. ⁴	10. ³	22. ²	13. ⁸
降水 (mm/月)	160. ⁴	262. ¹	173. ⁷	171. ⁴
日照 (時間/日)	2. ⁴	5. ²	5. ⁰	4. ³



きっかけ

農業・田舎暮らしへの思いを実現するための地を求めて数県を回った中から自然・教育・子育て等の環境に加え、「ふるさと農業研修生事業」(先進的実践農業者のもとで農業経験を積む制度)があった浜田市を選び、まったく初めての「農業」の道を歩き始めた。

独立の夢を語り続けていたところ、地区内営農者から耕作放棄されていた農地の紹介を受けた。耕作放棄地再生利用緊急対策の支援が受けられることも知り、平成23年度に再生作業を行った。

ほ場の決定要因

- ① 近くの山腹に源を発する300年以上湧き続けている水が利用できること
 - ② 北西に小高い山があり、地区特有の北西風が遮られること
 - ③ 自宅の近隣地のほ場であり、また日当たりも良好であること
- などが、再生利用という弱点はあるものの、ほ場決定の要因となった。

営農現況

水稲 30a 露地野菜 20a ぶどう 15a

これらに加え、平成25年から再生利用地(66a)に35aのメッシュハウスを設置し、市の特産果樹にも指定されているピオーネの栽培に着手する。



「湧水利用栽培」は販売上のアピール点にもなる。「水の有効利用」も重要な要素になるため、制度の支援を受けて10klの受水槽も設置、排水路の整備も行った。

新規就農を考える人へ一言～
一人でやらないで、農業をしていて相談できる人を見つけておくと良い。相談・アドバイスを受ければ大きな失敗はない。